

文化・芸術



「湖上」

1972年、水彩、インク、紙
21・14cm×32・0cm

難波田史男（1941～74年）

淡くにじみ、みずみずくという独創的な画風
ずしく混ざり合う水彩を展開しました。不慮
絵の具とインク。繊細の事故により32歳とい
な線で描かれているのう若さで急逝しました
はまるで未来の建築物が、15年足らずの活動
や水上都市、植物の内期間に、本作のような
部組織のようにも見え水彩とインクによる作
る抽象的な形象です。品を中心とした200
子どもの絵のように純0点を超える作品群を
粹で自由な本作は、難描き残しています。
波田(なんばた)史男の史男が亡くなる2年
内に無限に広がるイ前の1972年に制作
メージの世界が表現さされた本作は、202
れたものです。5年度に個人の方から
画家・難波田龍起のご寄贈いただいた作品
次男として生まれた史男です。この作品のほか、
男は、写真や画面構成現在開催中のコレクシ
にとられず、読書やョン展では同年度の新
音楽鑑賞から得たイン收藏作品を展示してい
ス・プレゼンションをもとます。

〈名画の扉〉

大川美術館コレクション展から

に自身の空想世界を描

(佐藤)